

複合語「～zuki」及「～girai」 —以詞類及前項要素的意義為中心—

王敏東

台灣 臺灣科技大學應用外語系 教授

摘要

在日語教育相當初期階段會介紹的反意形容詞組「suki」-「kirai」都有名詞的性質。但是臺灣人日語學習者卻不太知道這兩個詞的名詞性質。

本研究以後接語素「～zuki」-「～girai」為中心，探討他們分別與怎麼樣的語結合，形成哪種詞類的複合語，以及「～zuki」-「～girai」前接部分的意義範疇。具體利用辭典及電子資料庫調查分析「～zuki」-「～girai」的語例。

結果得知「～zuki」-「～girai」的造語力強，「～zuki」比「～girai」多，「～zuki」、「～girai」多當名詞使用，「～zuki」、「～girai」前接部的意義範疇縮小至名詞類及形容詞類的詞，但浸透至名詞類下的細分類，其中「飲食」（～zuki）類的成長率相當高。

並提出將本研究的成果導入日語教育的方案。

關鍵詞：形容動詞，名詞，意義範疇，造語力

受理日期:2020年 08月 25日

通過日期:2020年 10月 23日

Antonym 「～zuki」 - 「～girai」 :
Based on Word Category and Its Meaning

Wang, Ming-Tung

Professor, Department of Applied Foreign Language,
National Taiwan University of Science and Technology, Taiwan

Abstract

The antonym 「suki」 and 「kirai」 which are introduced in the early stage of Japanese education have the property of a noun. However, the Japanese learners in Taiwan commonly are not familiar with the noun property of these two words.

This paper aims at studying the words ended with 「～zuki」 or 「～girai」, on what kinds of words these two words can individually combine with, on what kinds of the compound words they have formed, on the meaning ranges of the words linked before these two words are. This study surveyed and analyzed the words with 「～zuki」 or 「～girai」.

The results showed that the words with 「～zuki」 or 「～girai」 have strong word-building ability, with the former being stronger than the latter. The words with 「～zuki」 or 「～girai」 are commonly used as a noun. The words linked before 「～zuki」 or 「～girai」 have the meaning ranges of noun or adjectives, with the growth rate of 「drinks and foods」 (～zuki) being the highest based on sub-category of noun category.

This paper also proposed the way to introduce the current findings to the Japanese education.

Keywords : nominal adjectives, noun, meaning range,
word-building ability

複合語「～好き」と「～嫌い」について —品詞と前項要素の意味を中心に—

王敏東

台湾 台湾科技大学応用外国語学科 教授

要旨

日本語教育においてかなり初期の段階で導入される反意形容動詞（な形容詞）対「好き」-「嫌い」は、各々名詞の性質も有している。しかし、それはあまり台湾人の日本語学習者に知られていない。

本稿では後接語素としての「～好き」-「～嫌い」について検討した。具体的には辞書と均衡コーパスを利用して、実際に用いられている「～好き」と「～嫌い」の語例を収集し、「～」にどのような語が入るかということや、「～好き」または「～嫌い」の品詞について分析した。

「～好き」、「～嫌い」の造語力が強いこと、「～好き」が「～嫌い」より多いこと、「～好き」、「～嫌い」が名詞として使われる例が多いこと、「～好き」、「～嫌い」の前接部の意味範疇が「体の類」（名詞に相当）と「相の類」（形容詞に相当）に縮小しているが、「体の類」のより細かい分野に浸透しており、とくに「食料」（～好き）の伸び率が高いこと、などが分かった。

キーワード：形容動詞、名詞、意味範疇、造語力

複合語「～好き」と「～嫌い」について —品詞と前項要素の意味を中心に—

王敏東

台湾 台湾科技大学応用外国語学科 教授

1. はじめに

「好き」と「嫌い」はいずれも、外国人を対象とした日本語教育において、かなり初期の段階で導入される形容動詞（な形容詞）である¹。また、互いに反意²関係にある³。しかし、「好き」と「嫌い」はともに形容動詞の他に、名詞の性質も有しており⁴、「～好き」と「～嫌い」も同様である。しかし、「好き」と「嫌い」が名詞であることは台湾の日本語学習者にさほど認知されていない。筆者が2020年8月上旬に、高校生・大学生・大学院生・社会人を含む台湾人日本語学習者106人を対象とした調査⁵で、「好き」、「嫌い」は形容動詞だと思う人は約8割であるのに対して名詞だと思う人は4割強であった⁶。好き・嫌いに当たる感情を中国語では動詞で表現する⁷。というのは「好き」と対応する中国語「喜歡」と、「嫌い」と

¹ たとえば、『学ぼう！日本語』（2005）第6課、『みんなの日本語』（2011）第9課では形容動詞（な形容詞）を最初に紹介した課にとりあげられている。また、日本語能力試験（旧制）では4級の語句である。

² 本稿では「反意語」、「対義語」、「反対語」などをとくに区別しないが、引用の時には原典の用語に従う。

³ たとえば『大辞林 第三版』や『デジタル大辞泉』（ともにコトバンク 2020.8.6 閲覧）。

⁴ 『大辞林 第三版』、『デジタル大辞泉』（ともにコトバンク（2020.8.8 閲覧））。

⁵ 調査の主な内容は、均衡コーパスなどからとった「(～)好き」、「(～)嫌い」が各々形容動詞と名詞の文5文ずつを提示し、「(～)好き」、「(～)嫌い」を注目して正しいかどうかを判断してもらう、という内容である。調査を受けた人は台湾の北部にある高校2校と大学3校の、初級日本語以上の日本語学習歴を有している学生とOBである。いずれの学校においても開講された日本語の授業では指定教材がなく、教材は担当の先生の意志で決められることとなっている。調査方法は主にSNS（FacebookとLINE）を通して前記の学校またはクラスのグループに通知を出して、googleに設定されたアンケートに記入してもらう方法であるが、前記の学校の学生が学校外の知人に転送することもある。

⁶ 「複数回答可」の設定なので、8割+4割で10割を超えている。

⁷ 前掲注5に示した調査で「(～)好き」、「(～)嫌い」は動詞だと思う台湾人日

対応する中国語「討厭」はいずれも中国語では動詞として使われているからである⁸。

また、反意関係について「程度の差を表わすもの」、「一方を否定すれば必ず他方になるもの」、「一つの事や見方や立場をかえて表現する」⁹など細かく分類されていながら、「好き」と「嫌い」の反意の様相について明確にされていない部分はある。たとえば『分類語彙表 増補改定版』では「好き」と「嫌い」は表1のように分類されている。

表1 『分類語彙表 増補改定版』における

「～好き」と「～嫌い」

	好き	嫌い
1.3020 好悪・愛憎	03 好き好き[たで食う虫も～] 横好き 下手(へた)の横好き 物好き	04 毛嫌い 食わず嫌い 食わず嫌い 人嫌い 人間嫌い
3.3020 好悪・愛憎	01 大好き 02-好き 猫好き 子供好き 出好き 旅行好き 酒好き 世話好き	03 大嫌い 04-嫌い 女嫌い 男嫌い 蛇嫌い 食わず嫌い 学校嫌い

ここで、「～好き」・「～嫌い」における名詞後接の表現として「横好き」(○) - 「横嫌い」(?), 「毛好き」(?) - 「毛嫌い」(○) ということに気付く。この「横」や「毛」というのは、「好き」や「嫌い」を強調する接頭語のようなものである。「横好き」があつて「横嫌い」がないのはなぜか、という次元の問題ではないのである。「好き」、というどちらかというといいい意味合いのものには「横」、悪い意味合

本語学習者は3割強である。「好き」や「嫌い」を含む「日本語の感情形容詞に当たるものは中国語では動詞か動詞から転成したものがほとんどである」(潘(1993: 114)) ことと深く関係があると考えられる。また、外国人が「サリーさんは勉強を好きです。」のような誤用文を作った理由として、「「すきな」「きらいな」・・・(中略)・・・第三人称を主語とした感情形容詞がとる「～は～を～がる」の構文の形にひっぱられた誤りのようである。」(国際交流基金(1978: 28))、「他にも、英語などでは“He likes/dislikes study.”のように「好きだ/嫌いだ」は他動詞で表すので、母語の干渉を受けた可能性も考えられる。」という(山崎(2000: 203))。

⁸ 「喜歡」と「討厭」の品詞は中央研究院平衡語料庫によって判断した。

⁹ 『日本語百科大事典』(1988: 1121)。

いの「嫌い」には「毛」が効果的だった¹⁰。しかし、台湾人日本語学習者にはそのような「語感」を求めるのは無理であろう。

本稿では複合語「～好き」と「～嫌い」について、その品詞と前項要素の意味を中心に検討する。研究成果を日本語教育に提言したい。

2. 先行研究

前節でも触れたように、「好き」と「嫌い」の品詞については『大辞林 第三版』や『デジタル大辞泉』に名詞と形容動詞の両方が掲載されている。『日本国語大辞典 第二版』には「好き」が「動詞「すく（好）」の連用形の名詞化」、「嫌い」が「動詞「きらう（嫌）」の連用形の名詞化」とも掲載されている。しかし、台湾で広く用いられている『学ぼう！日本語』や『みんなの日本語』¹¹という初級日本語の教材では、「好き」と「嫌い」が名詞としても使えることについてはとくに言及されていない。このような状況は、台湾人日本語学習者の、「好き」「嫌い」が名詞としても使われることに対する認知度が低いことと関係があると考えられる¹²。

加藤（2015）で、形容動詞が形態論的には名詞に近く、意味的には形容詞・形容動詞・名詞が連続性をなすと指摘されるように、「形

¹⁰ 「横」という言葉が正面から物事に取り組んでいないことを表しており、「横好き」自体が「じょうずでもないのに、むやみに好むこと」を意味する「横好き」（『デジタル大辞泉』）と否定の意味を持っているため、もし「横嫌い」があるとしたら、「嫌い」という否定の言動を正面から取り組んでいないという曖昧な意味になってしまうため、「横嫌い」はないのであろう。ちなみに、中国語の「横財」、「横死（街頭）」や、「飛來横禍」、「横生枝節」における「横」もそのような意味合いである。また、「毛嫌い」は「《鳥獣が、相手の毛並みによって好き嫌いをするところから》これという理由もなく、感情的に嫌うこと。わけもなく嫌うこと。」（『デジタル大辞泉』）という意味で、「毛好き」がもしあるとしたら理由もなくすごく好んでいることになる。しかし、好きという感情には普通何かしらの理由があるため、この言葉はないのであろう。

¹¹ 筆者が2020年8月上旬に、前掲注5に示した、台湾人日本語学習者106人を対象とした調査を実施したところ、『学ぼう！日本語』を使ったことがある人が4割強で、『みんなの日本語』を使ったことがある人が約9割であった。

¹² また、口語文法において和語の形容動詞語幹は漢語の形容動詞ほど日常語において独立性を実感することは少ないと言われる（原田（2001：115-116））ため、台湾人日本語学習者にとってその名詞性を認知しにくいのだろう。

容動詞」を1つの品詞として設ける必要があるかどうかという議論は前からあった¹³。そんななか、原田（2001）では漢語形容動詞を中心に、日本語教育では形容動詞をどう位置づけて教えるか、国文法での形容動詞についての問題点（とくに名詞との関連）について論じられているが、和語形容動詞の検討および日本語教育での課題などの問題が残っていると指摘されている。

また、『大辞林 第三版』、『デジタル大辞泉』の両辞書ともに「好き」の反意語は「嫌い」で、「嫌い」の反意語は「好き」、と提示されている。「好き」と「嫌い」の反意的な関係は「大きい」～「小さい」などと同じく「直観的な反意語」とされることがある（『日本語百科大事典』）¹⁴。直観的な反意語とされる「大きい」～「小さい」は同辞典で「程度の差を表わすもの」の反対語の例として取り上げられている¹⁵。反対語を、「程度の差を表わすもの」の他、「生」⇔「死」のような「一方を否定すれば必ず他方になるもの」、「教える」⇔「習う」のような「一つの事や見方や立場をかえて表現する」まで細かく分類してそれを明記した反対語辞典はまだないという¹⁶。確かに『反対語辞典』（1979 五六版）、『活用自在 反対語対照語辞典』（1999 第二刷）、『反対語大辞典』（1990 四八版）などの辞書の「好き」と「嫌い」を調べたところ、「好き」と「嫌い」は互いに反対語の関係として簡単な語釈や例文が付されたぐらいの形で取り上げられている¹⁷。

¹³ そのような議論についてはたとえば原田（2001）、松本（2017）で触れられている。

¹⁴ 「暑い」と「寒い」の関係はさらに複雑である。これは、これらの語が二つに対立しているのではなく、いわば意味上の一つの線の上に占める点をそれぞれ表わしているようなもので、その線上には「暖い」「涼しい」など、他の語があり、たとえば「暑い」を否定すると、「寒い」ではなく「涼しい」という意味になる。このように、程度を表わす語の集まりでは、「反意」が母語話者の直観と語用論のレベルでは異なることがある。また、形容詞や形容動詞には、同じように、「高い」～「低い」、「大きい」～「小さい」、「早い」～「遅い」、「好き」～「嫌い」など、直観的な反意語が多い。（『日本語百科大事典』（1988：435））。

¹⁵ 『日本語百科大事典』（1988：1121）。

¹⁶ 『日本語百科大事典』（1988：1121）。

¹⁷ ちなみに、『反対語対照語辞典』（1992）に「好き」と「嫌い」は収録されて

なお、語素としての「～好き」と「～嫌い」は『大辞林 第三版』、『デジタル大辞泉』に次のように示されている（表2）。

表2 「～好き」と「～嫌い」に関する辞書の記述

	～好き	～嫌い
『大辞林 第三版』	<p>（「…ずき」の形で）名詞の下に付いて複合語をつくる。</p> <p>㊦それが好きであること、またその人を表す。「文学ーの少女」「酒ーの人」</p> <p>㊧それに好かれる性質をもっていることを表す。「人ーのする性質」「女ーのする容貌」</p>	<p>（「…ぎらい」の形で）名詞または他の語句に付いて、その物やそうすることがいやであること、また、そうした人を表す。「人間ー」「勉強ー」「食わずー」</p>
『デジタル大辞泉』	<p>〔語素〕名詞の下に付いて、複合語をつくる。</p> <p>1 あること、また、あるものが好きであることを表す。また、そのような人をもいう。「外出好きの人」「酒好き」</p> <p>2 それに好かれる性質をもっていることを表す。「人好きのする性質」「若者好きのスタイル」</p>	<p>5（「…ぎらい」の形で）名詞または他の語句に付いて、その物事をするのがいやであること、また、そのような人の意を表す。「勉強嫌い」「食わず嫌い」</p> <p>「きら（嫌）い5」に同じ。「負けず嫌い」「食わず嫌い」</p>

* 辞書に掲載された語釈を筆者により整理。

表2に示されたように「嫌い」は「好き」と同じように名詞の下に付く他、「食わず嫌い」のように名詞以外の語句に付くこともあるので、数（語数）として「～嫌い」は「～好き」より多いのではなかろうか。

また、「～好き」と「～嫌い」の品詞については両辞書ではとくに触れられていないが、両辞書の「～好き」に関する例文はいずれも「～好き＋の＋名詞」の形となっているので、「～好き」は名詞として使われていると考えてよかろう。ただし、前述したように日本語教育の場では、「好き」と「嫌い」は主に名詞より形容動詞として提示されるため、「～好き」、「～嫌い」が形容動詞だと「類推」して思い込む日本語学習者が多いのではなかろうか。

対義形容詞については漆谷（2014）の論考がある。まず、「広い」

いない。

-「狭い」、「長い」-「短い」、「多い」-「少ない」など対義である形容詞それぞれに等しい種類の複合形が見られるのではなく、一方に偏って出現している状況が観察された。程度が「高、強、大」等の意味を持つ語の方が、その対義である「低、弱、小」等の意味を持つ語よりも造語力が強いことが一般的傾向として見出されている。対義形容詞が存在する場合、中立的意味を表す用法は尺度を表す際にも用いられ、一般化されやすく、そのことで使用頻度は高くなると考えられるからである。つまり、物事の特徴として注目されるのは一般には「高、強、大」の場合で、そちらの方が記述されやすい、というわけである(漆谷(2014))。この現象は対義形容動詞「好き」-「嫌い」にどのくらい当てはまるだろうか。

管見の限り、「好き」と「嫌い」、「～好き」と「～嫌い」の品詞に関する綿密な探究は見当たらない。また、「～好き」と「～嫌い」の前接部(「～」に当たる部分)の意味範疇についての考察も見当たらない。

3. 問題意識および研究方法

前節に示したように、まず台湾人日本語学習者が「(～)好き」-「(～)嫌い」の品詞(とくに名詞の性質)に対する認知度が低いことが分かる。また、「(～)好き」と「(～)嫌い」の反意の様相がまだ明らかにされていない、ということも分かった。

以上のことに基づき、本稿では後接語素としての「～好き」-「～嫌い」を中心に、それぞれどのような語と結びつき、どのような品詞の語を生成するか、そして「～好き」、「～嫌い」の前接部の意味範疇はどのようなものであるかを検討する。

方法としては、辞書とコーパスを利用して、実際に用いられている「～好き」と「～嫌い」の語例を収集・分析する。使用する辞書は前掲『大辞林 第三版』と『デジタル大辞泉』の他、総項目数 50

万、用例数 100 万を収録した日本最大の国語辞典¹⁸である『日本国語大辞典 第二版』も入れる。また、コーパスは国立国語研究所が現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築し、現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである『現代日本語書き言葉 均衡コーパス 中納言版』¹⁹（以下 BCCWJ）を利用する。なお、BCCWJ で適当な例が見つからない場合は『朝日新聞』²⁰やネットニュースを利用して補足することも考えられる。

4. 調査結果

本節ではまず辞書から「～好き」、「～嫌い」の形の見出し語を抽出する。抽出した語について BCCWJ を利用して用例を検索し、辞書に掲載された語の使用状況を検討する。また、「～好き」、「～嫌い」をキーワードとし、同じく BCCWJ を利用して用例を検索し、辞書に掲載されていない「～好き」、「～嫌い」を探す。このようにして収集した「～好き」、「～嫌い」について分析を行う。

4.1 辞書で見られる「～好き」と「～嫌い」

『デジタル大辞泉』と『日本国語大辞典 第二版』の見出しにある「～好き」、「～嫌い」は表 3 の通りである²¹。

表 3 辞書の見出しにある「～好き」、「～嫌い」²²

	～好き	～嫌い
	見出し語	見出し語
『デジタル大辞泉』	「新しもの好き」、「酒好き」、「出好き」、「派手好き」、「目好き」など 16 語 ²³ （名詞 7 語、	「内嫌い」、「選り嫌い」、「男嫌い」、「食わず嫌い」など 17

¹⁸ 「日本国語大辞典 第二版」

(<https://japanknowledge.com/contents/nikkoku/index.html>) (2020.8.6 閲覧)。

¹⁹ 「書き言葉均衡コーパス」(https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/) (2020.8.6 閲覧)。

²⁰ 朝日新聞記事データベース文蔵Ⅱを使用。

²¹ 『デジタル大辞泉』と『日本国語大辞典 第二版』を使用したのは、ジャパンナレッジに入っているこの 2 点の辞書では「～好き」、「～嫌い」のような「好き」、「嫌い」が語の後項に位置する語を検索できるからである。

²² 「大好き」など本稿の検討範囲外の語は含まれない。以下表 4 も同様。

²³ 1 語に複数の品詞が提示されることがあるため、語数は後掲 () 内の数字と一致するとは限らない。以下同様。

	形容動詞 7 語 ²⁴ 、未提示 8、句 1 ²⁵)	語 (名詞 4 語 ²⁶ 、形容動詞 3 語、未提示 10)
『日本国語大辞典 第二版』	「朝寝好き」、「遊び好き」、「新しもの好き」、「悪戯好き」、「歌好き」、「傾城好き」、「酒好き」、「出好き」、「たで食(く)う虫(むし)も好(す)き好(ず)き」、「派手好き」、「目好き」など 114 語 (名詞 105 語、形容動詞 26 語、句 9)	「内嫌い」、「男嫌い」、「外出嫌い」、「学校嫌い」、「食わず嫌い」、「酒嫌い」、「死嫌い」、「湯嫌い」など 38 語 (名詞 35 語、形容動詞 9 語、句 3)

『デジタル大辞泉』にある「～好き」はすべて『日本国語大辞典 第二版』にも見出しとして立てられている。また、『デジタル大辞泉』にある「～嫌い」は「選り嫌い」以外すべて『日本国語大辞典 第二版』にも見出しとして立てられている。このような結果はもちろん辞書の言葉を収録する語数に大きく関与している。『デジタル大辞泉』の収録語数は約 30 万語である²⁷のに対して『日本国語大辞典 第二版』の収録語数は約 50 万語である。

両辞書に重複するものを除いて数えると、「～好き」114 語²⁸、「～嫌い」39 語となる。「～好き」の数が「～嫌い」より多いことが分かる。「～好き」と「～嫌い」の前接部が同じものであるのは「男好き」-「男嫌い」、「女好き」-「女嫌い」、「酒好き」-「酒嫌い」²⁹、「西洋好き」-「西洋嫌い」、「旅好き」-「旅嫌い」³⁰、「出好き」-「出嫌い」、「話好き」-「話嫌い」³¹、「人好き」-「人嫌い」という 8 組しかない。つまり、「◎◎好き」があるから、「◎◎嫌い」という反意語も対等的にあるとは限らず、むしろ「◎◎好き」か「△△嫌い」のどちらか片方が存在することの方が一般的のようで

²⁴ その中の 1 語（「不物好き」）は「形動ナリ」と示されている。

²⁵ 見出し語に「へたの横好(よこず)き」などのような句のものもあるが、本稿では便宜のため語として数える。以下同様。

²⁶ その中の 1 語（「毛嫌い」）は「[名](スル)」と示されている。

²⁷ 「大辞泉について」(<https://daijisen.jp/about/index.html>) (2020.8.6 閲覧)。

²⁸ 接頭語+「好き」という構造の語（「いけ好き」『日本国語大辞典 第二版』）が 1 語含まれる。

²⁹ ただし、「酒嫌い」は『デジタル大辞泉』に見出しとして立てられていない。

³⁰ 「西洋好き」、「西洋嫌い」、「旅好き」、「旅嫌い」はいずれも『デジタル大辞泉』に見出しとして立てられていない。

³¹ ただし、「話嫌い」は『デジタル大辞泉』に見出しとして立てられていない。

ある。

辞書に収録されている「～好き」、「～嫌い」の前接部を、『分類語彙表 増補改定版』の分類³²と照らし合わせてみると、「体の類」、「用の類」、「相の類」、「その他」という4つの大分類のいずれの類にも「～好き」、「～嫌い」の前接部の語が見られた。その中では、「体の類」の語＋「～好き」・「～嫌い」の複合語が最も多い。「相の類」・「その他」の語＋「好き」の語が「立派好き」など4語（3.13 様相）、「ちょっと好き」（3.16 時間）、「好き好き」など2語（3.30 心）、「清潔好き」（3.33 生活）、「綺麗好き」など2語（3.50 自然）、あるが、「相の類」・「その他」の語＋「嫌い」の語は見当たらない。また、「用の類」の語＋「嫌い」の語が「負ける嫌い」（2.15 作用、2.35 交わり）などの11語があるのに対して、「用の類」の語＋「好き」の語は見当たらない（文末付録各欄の括弧（）の前の数字）。

一方、「～好き」、「～嫌い」の品詞は、「のら木好き阿呆鳥好き貧乏花好き」、「しゅっけの念仏嫌い」のような句の形のものを除くと、名詞が形容動詞より多いのが分かった。また、形容動詞として使えるものはすべて名詞としても使える。前掲注 24 に示した「不物好き」は『デジタル大辞泉』で「名・形動ナリ」と提示されているが、『日本国語大辞典 第二版』では「〔名〕（形動）」と提示されている。また、「酒好き」、「出好き」、「出嫌い」は『デジタル大辞泉』で「名・形動」と提示されているが、『日本国語大辞典 第二版』では名詞としか提示されていない。このような例から、「～好き」、「～嫌い」の品詞認定については辞書によって違うことがあるのが分かる。これらの語の実際に使われた状況を BCCWJ で確認すると、「それでも酒好きな人にとっては、値段も安く、適当に酔って、気分がよいらしく」（1995『永遠の蝶々夫人三浦環』、下線は

³² 前接部が『分類語彙表 増補改定版』で見当たらないものには「～好き」35語と「～嫌い」9語がある。たとえば「何子目好き」、「若族好き」、「死嫌い」などが含まれる。

筆者により、以下同様)、「次にあげるのは、酒好きな人の多い高知県人、安岡章太郎氏の話である。」(2003『当世酔っ払い事情』)など、「酒好き」が形容動詞として使われている例がいくつか見られた³³。また、「出嫌い」は「人と話すのが好きな私は、地域の福祉関係のお手伝いをし、出嫌いな妻は、家事に専念している。」

(2001.11.27『朝日新聞』)という形容動詞の例が新聞で見られた。

なお、辞書に掲載された品詞と異なった品詞で使われた例として、たとえば「犬好き」は『日本国語大辞典 第二版』で名詞とされているが、BCCWJに「犬好きな子供はうれしいかもしれないけど」(2005『Yahoo!知恵袋』)という、形容動詞として使われた例が見られた。

4.2 コーパスで見られる「～好き」と「～嫌い」

まず辞書収録の「～好き」、「～嫌い」がBCCWJで使われている状況をまとめると、表4のようになる。

表4 「～好き」、「～嫌い」がBCCWJで使われている状況

	～好き	～嫌い
用例がある	「遊び好き」、「新し物好き」、「熱湯好き」、「悪戯好き」、「犬好き」、「馬好き」、「男好き」、「女好き」、「学問好き」、「客好き」、「綺麗好き」、「喧嘩好き」、「騒ぎ好き」、「冒険好き」、「物好き」など45語	「男嫌い」、「女嫌い」、「学校嫌い」、「食わず嫌い」、「毛嫌い」、「酒嫌い」、「人間嫌い」、「勉強嫌い」など14語
用例がない	「新し好き」、「熱風呂好き」、「甘好き」、「居浸好き」、「襟好き」、「大酒好き」、「辛好き」、「汚好き」、「傾城好き」、「芸好き」、「衆道好き」、「素物好き」、「若族好き」、「寝好き」、「不物好き」、「振舞好き」、「目好き」、「立派好き」、「悪物好き」など69語	「内嫌い」、「選り嫌い」、「面嫌い」、「片嫌い」、「菓嫌い」、「交際嫌い」、「後生嫌い」、「死嫌い」、「しゅっけの念仏嫌い」、「外嫌い」、「旅嫌い」、「船嫌い」、「負ける嫌い」、「都嫌い」など25語

表4で分かるように、辞書に見出しとして収録されている「～好

³³ 「今日は“出好き”に封印(笑)」(2008『Yahoo!ブログ』)という「出好き」の例があるのに対して、「不物好き」、「出嫌い」はBCCWJに用例が見当たらない。

き」、「～嫌い」の約4割は BCCWJ で用例がある。そんな中で、「動詞ず+嫌い」の形となっているのは「食わず嫌い」、「食べず嫌い」と「負けず嫌い」である。BCCWJのうち今回の調査範囲で使われたこの形の語は「負けず嫌い」、「食べず嫌い」と「食わず嫌い」はもちろんのこと、表記が異なっている「今現在、何故あれだけの売れっ子になって、喰わず嫌いには出ないのでしょうか？」(2005『Yahoo!知恵袋』)の他、「食わず嫌いじゃないけど、行かず嫌いって感じですね。」(2005『Yahoo!知恵袋』)、「この2人の話に代表されるように、インスリン治療を拒否している患者さんの多くはいわゆる「食わず嫌い」のケースが多いのです。では、「うたず嫌い」にならないように、インスリン治療について勉強していきましょう。」(2002『一緒に始めよう！やさしいインスリン治療の自己管理』)、といった安定した1語と認められないものが見られたぐらいである。つまり、「動詞ず+嫌い」の形の語はあまり生産性がないと考えてよかろう。

一方、辞書収録の「～好き」、「～嫌い」の6割は BCCWJ で用例が見当たらない。そのような語のほとんどが『日本国語大辞典 第二版』に見出しとして掲載されている語である³⁴。

他方、辞書には収録されていないが BCCWJ に用例が見られた「～好き」、「～嫌い」がある。表5の通りである。

表5 辞書に収録されていない「～好き」、「～嫌い」

～好き	～嫌い
「アイス好き」、「アイドル好き」、「揚げ物好き」、「いじり好き」、「犬夜叉好き」、「宇宙好き」、「映画好き」、「駅弁好き」、「オペラ好き」、「面白好き」、「外国人好き」、「株好き」、「韓国好き」、「儀式好き」、「競争好き」、「口論好き」、「さっぱり好き」、「寒さ好き」、「スカイ	「甘物嫌い」、「暗記嫌い」、「在日嫌い」、「薩長嫌い」、「寒さ嫌い」、「スポーツ嫌い」、「接続詞嫌い」、「戦嫌い」、「東大嫌い」、「逃げ嫌い」、「パソコン嫌い」、「歯磨き嫌い」、「NW嫌い」など 145 語

³⁴ 「不物好き」、「目好き」、「面嫌い」、「外嫌い」、「出嫌い」は『デジタル大辞泉』にも収録されている。また、『デジタル大辞泉』の「選り嫌い」も BCCWJ に用例が見当たらない。

ライン好き」、「すっぱい好き」、「寺好き」、「龍馬好き」、「ワンコ好き」、「AKIRA好き」、「Syrup好き」、「Vシネマ好き」など 376 語	
---	--

表 5 で、辞書に収録されていないが BCCWJ で用例が見られた「～好き」は「～嫌い」より遥かに多いのが分かる。これらの「～好き」、「～嫌い」の前接部を『分類語彙表 増補改定版』の分類³⁵と照らし合わせてみると、「体の類」の語が最も多く、次は「相の類」の語で、「用の類」と「その他」の語は見当たらない（文末付録各欄の括弧（）内の数字）。

また、これらの、辞書に掲載されていないが BCCWJ に用例が見られた「～好き」、「～嫌い」の品詞はどうなっているか。以下表 5 に提示した辞書に掲載されていない「～好き」、「～嫌い」の品詞について検討する。品詞の認定は寺村(1982)、または松本(2017)に従い、格助詞「が」、「を」、「の」、「に」との共起が可能かどうか、また、連用修飾に「に」、連体修飾に「な」の活用語尾が作用するかということによって判断する。

単純に「好きな」／「好きの」と「嫌いな」／「嫌いの」をキーワードに BCCWJ で検索したら、それぞれ 11937／764 例と、1287／216 例ヒットした。「好き」系は「嫌い」系より多く、形容動詞としての使い方は名詞としての使い方より多い、ということが分かる。

一方、BCCWJ であつめた、辞書に見出しとして立てられていない「～好き」（376 語）、「～嫌い」（145 語）の品詞は表 6 のようになっている。

表 6 BCCWJ で見られた「～好き」、「～嫌い」の品詞

a 主語として使う（格助詞「が」、または取り立て助詞「は」と共起）、b 格助詞「を」と共起、c 格助詞「に」と共起、d 連体修飾（動詞や形容動詞など活

³⁵ 「～好き」、「～嫌い」の前接部が『分類語彙表 増補改定版』で見当たらないものとして「～好き」298 語と「～嫌い」116 語がある。そのような語に「犬夜叉好き」、「ヴィランズ好き」、「Syrup好き」、「薩長嫌い」、「東大嫌い」などが含まれる。

用語の連体形の後／「この」、「大の」など連体詞の後／名詞の前または後が「の」となる)、e 連体修飾 (名詞の前が「な」となる)、f 連用修飾に立つ (用言の前が「に」となる／形容動詞などの連用形の前)、g 「さ」を付けて名詞となる、h その他

～好き									
語例	数	名詞的				形容動詞的			
		a	b	c	d	e	f	g	h
アイス好き	2	×	×	×	×	×	×	×	○
アイディア好き	1	×	×	×	○	×	×	×	×
アイドル好き	4	×	×	×	○	○	×	×	×
アウトドア好き	2	×	×	×	○	×	×	×	×
揚げ物好き	1	×	×	×	○	×	×	×	×
アクション好き	1	×	×	×	×	○	×	×	×
アゴーン好き	1	×	○	×	○	×	×	×	×
新しいもの好き	13	×	×	×	○	○	×	×	×
アニメ好き	10	×	○	×	○	○	×	×	×
脂好き	1	×	×	×	○	×	×	×	×
中略									
S M好き	4	×	×	×	○	×	×	×	×
S y r u p好き	1	×	×	×	○	×	×	×	×
U V E R好き	1	×	×	×	○	×	×	×	×
Vシネマ好き	1	×	×	×	○	×	×	×	×
Z E A L好き	1	○	×	×	×	×	×	×	×
計	539	67	24	37	317	71	1	0	22
～嫌い									
アートステューデント嫌い ³⁶	1	×	×	×	×	×	×	×	×
甘味嫌い	1	×	×	×	○	×	×	×	×
甘いもの嫌い	2	○	×	×	○	○	×	×	×
アメリカ嫌い	10	○	○	×	○	×	×	×	×
暗記嫌い	1	×	×	×	○	×	×	×	×
イギリス嫌い	2	○	×	×	○	×	×	×	×
異人嫌い	1	×	×	×	○	×	×	×	×
犬嫌い	17	×	○	×	○	○	×	×	×
中略									
レバ刺嫌い	1	×	×	×	×	×	×	×	×
「ロケ嫌い」	1	×	×	×	×	×	×	×	×
ワゴン嫌い	1	×	×	×	○	×	×	×	×
タバコ嫌い/煙草嫌い	6	○	×	×	○	○	×	×	×
C L E U嫌い	1	×	○	×	×	×	×	×	×
N W嫌い	1	×	×	×	○	×	×	×	×
計	166	34	15	2	100	12	0	0	3

「○」: BCCWJ で用例が確認できた。 「×」: BCCWJ で用例が見当たらない。

³⁶ 数は 0 でないのにどこにも「○」がついてないのは、「わしも、アートステューデント嫌い。」という名詞か形容動詞か判別不能のようなものである。

表6で分かるように、今回 BCCWJ からあつめた、実際に使われている「～好き」、「～嫌い」のほとんどは名詞の性質を有している。とくに、「無類の鍋好きの客に、夏にも鍋を出してくれと懇願されたこともある」(2004『食彩浪漫 (NHKテレビ放送テキスト)』)、「中国に反感を持つてる者もいれば、アメリカ嫌いの奴もいる。」(2003『妖花』)などのような「～好き／嫌い+の+名詞」の形が最も多い。また、「一人、また一人と音楽好きが集まってきた。」(2020『琉球新報』)、「あるいは深田の犬嫌いを知っているのであろう。」(1990『黒い神座』)、「日本の餃子好きにはサクサクした食感を好む人と(下略)」(2001『d a n c y u』)などのように「が」、「を」、「に」格との共起の使い方も観察された。さらに、「独身・不妊・子供嫌いなどで産む女性が少なくなってるんでしょ。」(2005『Yahoo!知恵袋』)などのように他の名詞との並列や、「チョコレート好きとしては常に持ち歩いていま～す！」(2008『Yahoo!ブログ』)のような例(表6では「hその他」に帰属)も名詞として認められよう。

一方、「～好き」、「～嫌い」が形容動詞として用いられる例は「司教の顔は、もてなし好きな人に特有の陽気な表情に変わった。」(1996『レ・ミゼラブル』)、「自分で作った野菜だと、野菜嫌いな子どもでもおいしく食べられるといます。」(2008『市報松江』)のような連体修飾の例も見られる。が、数としては多くない。

その中で、「～好き」と「～嫌い」が同時に存在しているのは 29 組である。しかし、形容動詞か名詞かの性質は必ずしも対応しているとは限らない(表7)。

表7 BCCWJ で見られた対となっている

「◎◎好き」 - 「◎◎嫌い」³⁷

～好き				～嫌い			
名詞的	形容詞			名詞的	形容詞		
	動的				動的		

³⁷ a～h、ならびに「○」、「×」の意味は表6と同様。

a	b	c	d	e	f	g	h		a	b	c	d	e	f	g	h
×	○	○	○	○	×	×	×	甘いもの	○	×	×	○	○	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	アメリカ	○	○	×	○	×	×	×	×
○	×	○	○	○	×	×	×	映画	×	×	×	○	×	×	×	×
×	○	×	×	×	×	×	×	営業	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	お好み焼き	×	○	×	○	×	×	×	×
○	×	○	○	○	○	×	×	音楽	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	外国人	○	×	×	○	×	×	×	×
○	×	×	○	○	×	×	×	カラオケ	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	○	○	×	×	×	×	韓国	○	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	○	○	×	×	×	キノコ	○	×	×	×	○	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	牛乳	×	×	×	○	×	×	×	×
○	○	○	○	○	×	×	×	車/クルマ	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	寒さ	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	○	×	×	○	仕事	×	×	×	×	×	×	×	×
○	×	×	○	○	×	×	×	社交	×	×	×	×	×	×	×	×
○	×	×	○	×	×	×	○	写真	×	×	×	○	○	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	数学	○	○	○	○	×	×	×	○
×	×	×	○	×	×	×	×	スポーツ	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	戦争	×	×	×	○	×	×	×	×
○	×	×	○	○	×	×	×	動物	○	×	×	×	○	×	×	○
○	×	○	○	○	○	×	×	読書	×	○	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	○	×	×	×	日本	○	×	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	ヒーロー	×	○	×	×	×	×	×	×
×	×	×	○	○	×	×	×	飛行機	×	×	×	○	×	×	×	×
○	×	×	○	○	×	×	×	ブランド	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	マスコミ	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	×	○	×	×	×	×	抹茶	×	×	×	○	○	×	×	×
○	×	×	○	×	×	×	×	水	×	×	×	○	×	×	×	×
×	×	○	○	×	×	×	×	理科	○	×	×	○	×	×	×	×

日本語教育の現場では、「好き」、「嫌い」は主に形容動詞として教授されているが、これまでの検討で、「～好き」、「～嫌い」は形容動詞よりむしろ名詞として一般に使われていることを明らかにした。また、形容動詞と名詞と両方の性質を持っている「～好き」、「～嫌い」もある。今回 BCCWJ で形容動詞の例しか検出できなかった「～好き」の「アクション好き」、「ホットケーキ好き」、「熟女好き」、

「流行りもの好き」、「ファンタジー好き」、「中華料理好き」³⁸について、新聞やインターネットではそれぞれ、「アクション好きの山本舞香が『今日俺』で初めて挑む、80's 女番長！」(2020.7.17『MEN'S NON-NO WEB』)、「“流れ弾”でルーニー熟女好きが暴露される」(2020.5.18『ゲキサカ』)、「彼は大々大のホットケーキ好き。」(1999.6.10『朝日新聞』夕刊)、「リリー・フランキー、峯岸みなみに提案「AKB48 に 45 歳くらいまでいてくれたら、熟女好きの票で…」」(2020.5.15『TOKYO FM+』)、「彼は私の流行り物好きを馬鹿にします。」(2013『Yahoo!知恵袋』)、「こちらもファンタジー好きの心を射止めています。」(2006.12.6『朝日新聞』)、「中華料理好きの2代目西崎巧さん(60)が、テレビで豚まんの特集を見たのがきっかけ。」(2012.3.20『朝日新聞』)のような例が見られた。

5. 考察

この節では「～好き」、「～嫌い」の数、「～好き」と「～嫌い」における前接部分の意味範疇と、「～好き」と「～嫌い」の品詞についてまとめる。また、本研究の調査・整理の結果を日本語教育に生かす案を提言する。

5.1 「～好き」、「～嫌い」の数量

まず、「～好き」と「～嫌い」の数であるが、前掲の調査により、辞書収録以外の「～好き」と「～嫌い」が大量に BCCWJ で使われているので、「～好き」、「～嫌い」ともに造語力が強いことが分かった。しかし、「動詞ず+嫌い」の形の語はあまり生産性がない。「好き」の前には名詞しか来ないが、「嫌い」の前には名詞の他、他の語句が来ることも可能なので、理論上は「～嫌い」が「～好き」より多いと考えられる。しかし、実際には、辞書に収録された「～好き」と、BCCWJ で使われている「～好き」は、いずれも、「～嫌い」の3倍以上もある。これは「先行研究」の節で触れた、漆谷に

³⁸ 今回 BCCWJ で形容動詞の例しか検出できない「～嫌い」は見当たらなかった。

よる形容詞（い形容詞）を対象とした考察（漆谷（2014））の、対義である形容詞それぞれに等しい種類の複合形が見られるのではなく、程度が「高、強、大」等の意味を持つ語より造語力が強い、という研究結果と一致した現象である。その理由として、漆谷（2014）では、「対義形容詞が存する場合、程度「強」の意味を表す方に、中立的意味を表す用法が見られる。中立的意味を表す用法は尺度を表す際にも用いられ、一般化されやすく、そのことで使用頻度は高くなると考えられるからである」、と説明されている。確かに、われわれが何かに対する感情を訊ねる場合は「嫌いか」でなく、「好きか」と聞くのが普通であろう。

5.2 「～好き」と「～嫌い」における前接部分の意味範疇

前節（4. 調査結果）で、辞書に収録されている「～好き」、「～嫌い」と、辞書に収録されていないが BCCWJ で使われている「～好き」、「～嫌い」の前接部を『分類語彙表 増補改定版』の分類と照らし合わせた。辞書に収録されている「～好き」、「～嫌い」の前接部は『分類語彙表 増補改定版』の、「体の類」、「用の類」、「相の類」、「その他」という4つの大分類のすべてに渡っている。それに対し、辞書に収録されていないが BCCWJ で使われている「～好き」、「～嫌い」の前接部については、異なり語数が多いにもかかわらず、「体の類」と「相の類」の語しか見当たらない。

さらに『分類語彙表 増補改定版』の中分類を見ると、本来（辞書に）あったが BCCWJ で使われていない「～好き」、「～嫌い」の前接部は「1.12 存在」（～好き）、「1.15 作用」（～好き）、「1.21 家族」（～好き）、「1.22 仲間」（～好き）、「1.44 住居」（～好き）、「2.35 交わり」（～嫌い）、「3.16 時間」（～好き）、「4.32 呼び掛け」（～好き）などの10分類に渡っている（付録）。それに対して、本来（辞書に）なかったが BCCWJ で使われている「～好き」、「～嫌い」の前接部は「1.21 家族」（～嫌い）、「1.22 仲間」（～嫌い）、「1.26 社会」（～好き）、「1.27 機関」（～好き、～嫌い）、「1.37 経済」（～好き）、「1.41 資材」（～嫌い）、「1.52

天地」(～好き)、「1.54 植物」(～嫌い)、「3.19 量」(～嫌い)、「3.36 待遇」(～嫌い)などの21分類にも渡っている(付録)。

これはつまり、「～好き」、「～嫌い」の前接部の意味範疇は「体の類」、「用の類」、「相の類」、「その他」から「体の類」と「相の類」に減っているが、「体の類」のより細かい分野に浸透していることを物語っている。とくに「1.43 食料」(～好き)の伸び率(辞書収録6語(7.6%)→BCCWJ55語(18.5%))が目立っている(付録ゴシックの部分)。

5.3 「～好き」と「～嫌い」の品詞

辞書に収録されている「～好き」、「～嫌い」は句の形のものを除いて、名詞が形容動詞より多い。また、形容動詞の性質を有する、辞書収録の「～好き」、「～嫌い」のすべては名詞としても使える。辞書に収録された「酒好き」、「出好き」、「出嫌い」の品詞について、形容動詞とはみなさないという辞書もあるが、実際には「酒好きな＋名詞」の例がBCCWJで、「出嫌いな＋名詞」の例が『朝日新聞』で確認された。

一方、辞書に収録されていないがBCCWJで使われている「～好き」、「～嫌い」の多くも名詞として使われている。とくに、格助詞「の」との共起が最も多く用いられている。

上記の調査結果から見れば、「～好き」、「～嫌い」の形容動詞の性質が弱まっており、かわりに名詞の性質が強まっていると言えよう。

5.4 日本語教育への提案

『学ぼう！日本語』、『みんなの日本語』など台湾で広く使用されている日本語学習教材で「好き」、「嫌い」はかなり早期に導入される「形容動詞」(な形容詞)である。「好き」、「嫌い」を意味的に、または日本語学習者の母語の影響で、動詞だと勘違いした学習者が少なくない。しかし、「好き」、「嫌い」は名詞の性質も有している。前掲した、筆者が2020年8月に台湾人日本語学習者を対象とした調査では、「好き」、「嫌い」は形容動詞だと認識して

いる人が多く、動詞だと思う人が3割強で、名詞だと認知している人が4割強、という結果を得た。

このような調査を踏まえて、「(～)好き」、「(～)嫌い」について、日本語教育の場で学習者に以下のように教えることを提案したい。

まず、「好き」は「動詞「好く」の連用形から」、「嫌い」は「動詞「嫌う」の連用形から」という語の成り立ちを学生に知らせることがあげられる³⁹。動詞の連用形が名詞として使えることはたとえば「本をかいに行きます。」の「かい」のように、目的を表す格助詞「に」や移動動詞を紹介する課でかなり早期に導入される初級日本語の内容である⁴⁰。目的を表す「に」の前に名詞が必須なため、動詞「買います」を連用形(ます形)の「買い」にしなければならない。つまり、動詞の連用形が名詞の性質を有することを学生に想起させて、動詞「好く」(好きます)、「嫌う」(嫌います)の連用形「好き」、「嫌い」が名詞として使えることを学生に提示する。

橋本進吉氏が「今日の言語は過去幾千年の変遷を経て出来上がったものであるから、いかなる種類の学問を問わず、苟も日本文化の展開を詳にしようとするには過去の言語の正確なる知識を要し、又現在の日本語の由来する所を明にして、之を徹底的に理解するにも、亦国語を顧みなければならない」と述べた(橋本(1929:140))ように、「好き」、「嫌い」の、動詞由来、連用形の名詞の性質など語史に関する知識を適切に学習者に紹介することは「(～)好き」、「(～)嫌い」の品詞などを、系統的に理解することに役立つのであろう。

³⁹ 前掲の、「好き」、「嫌い」が動詞だと思う学習者には「好き」、「嫌い」がそれぞれ動詞由来のことを知らせたら納得させるだろう。

⁴⁰ 旧制日本語能力試験4級の文法事項である。前掲の「本をかいに行きます。」という例文は国際交流基金・日本国際教育協会(1994)『日本語能力試験出題基準』p.126の引用である。また、『みんなの日本語』(2011)では第13課に「わたしはフランスへ料理を習いに行きます。」の文型、『学ぼう!日本語』(2012)第9課に「わたしは横浜へごはんをたべに行きます。」の基本文が提示されている。

また、注 10 に提示した「毛嫌い」が「鳥獣が、相手の毛並みによって好き嫌いをするところから」といった語形成に関する知識を学習者に知らせることも「(～)好き」、「(～)嫌い」の理解に役立つと思われる。

6. 終わりに

日本語教育においてかなり早期に導入される「好き」、「嫌い」は主に形容動詞として学習者に紹介されている。また、語素としての「～好き」、「～嫌い」は「好き」、「嫌い」と同様、形容動詞と名詞と両方の働きを有することがある。しかし、台湾人日本語学習者は「(～)好き」、「(～)嫌い」の名詞としての性質をあまり知らない。また、互いに反意語である「好き」と「嫌い」がどのような反意関係にあるかも深く探究されていない。

本稿では以上のことを探るため、複合語「～好き」と「～嫌い」について、その品詞と前項要素の意味を中心に調査・分析をした。まず、「～嫌い」の前接部分の制限(名詞でなくてよい)が「～好き」の前接部分の制限ほど厳しくないのに、辞書に収録されている「～嫌い」は「～好き」より少ないことが分かった。また、辞書に収録されている「～好き」、「～嫌い」の多くは BCCWJ に用例が見当たらない。しかし、辞書に収録されていないが BCCWJ で使用されている「～好き」、「～嫌い」は非常に多い。つまり、「～好き」、「～嫌い」は強い造語力を持っているのである。また、辞書収録の状況と同じく、「～好き」は「～嫌い」より多い。「～好き」、「～嫌い」の考察を通して、「好き」と「嫌い」は互いの反意語となっているが、「◎◎好き」に必ずしも「◎◎嫌い」が存するとは限らないことを明らかにした。「～好き」が「～嫌い」より多いという結果は、対義形容詞について研究した漆谷(2014)の、「対義形容詞が存する場合、程度「強」の意味を表す方に、中立的意味を表す用法が見られる。中立的意味を表す用法は尺度を表す際にも用いられ、一般化されやすく、そのことで使用頻度は高くなると考えられるからである」と

いう説とも一致する。

一方、「～好き」、「～嫌い」の前接部の意味範疇を見ると、「～好き」、「～嫌い」の前接部の意味範疇は「体の類」、「用の類」、「相の類」、「その他」から「体の類」と「相の類」に減少しているが、「体の類」のより細かい分野に浸透しており、とくに「1.43 食料」（～好き）の伸び率が高い。

また、辞書に収録されているか否かにかかわらず、「～好き」と「～嫌い」はいずれも、形容動詞より名詞として使われる例が多く確認できた。「(～)好き」、「(～)嫌い」の名詞の性質を日本語学習者に覚えてもらうため、「好き」と「嫌い」のそれぞれが動詞「好く」、「嫌う」に由来し、連用形の「好き」、「嫌い」は「本をかいに行きます。」という移動動詞文の目的を表す「に」格と同じように名詞として使える、ということを想起させるのがいい方法だと考えられよう。

以上の考察により、「(～)好き」、「(～)嫌い」の品詞、ならびに「～好き」、「～嫌い」の前接部の意味範疇を明らかにした。この研究成果が日本語教育に応用されれば幸いである。

謝辞：本研究は科技部が助成している研究計画(MOST109-2410-H-011-028-)の成果の一部である。注 10 に提示した「横好き」と「毛嫌い」に関する意見はこの研究計画に携わっている台湾科技大学の李玫霖氏のご意見をいただいた。科技部および李氏に感謝の意を申し上げたい。

参考文献

漆谷広樹（2014）「複合形容詞の研究—対義形容詞の状況から—」

『愛知大學文學論叢』150、名古屋市、pp.101-124

加藤重広（2015）「形容動詞から見る品詞体系」『日本語文法』15 卷

2号、西宮市、pp.48-64

聞蔵Ⅱ 朝日新聞記事データベース

(<http://database.asahi.com/index.shtml>)

北原保雄著；久保田淳・谷脇理史・徳川宗賢・林大・前田富祺・松井栄一・渡辺実編集『日本国語大辞典 第二版』小学館（ジャパンナレッジ <https://japanknowledge.com/library/>）

北原保雄・東郷吉男（1992）『反対語対照語辞典』東京都、東京堂出版

金田一春彦・林大・柴田武編集（1988）『日本語百科大事典』東京都、大修館書店

国際交流基金（1978）『教師用日本語教育ハンドブック 3 文法I』東京都、凡人社

国際交流基金・日本国際教育協会（1994）『日本語能力試験出題基準』東京都、凡人社

国立国語研究所（2004）『分類語彙表 増補改定版』東京都、大日本図書

国立国語研究所『現代日本語書き言葉 均衡コーパス 中納言版』（https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fj_spring_cas_security_check）

塩田義和・中村一男（1979 五六版）『反対語辞典』東京都、東京堂出版

スリーエーネットワーク（2011 第3版第27刷）『大家的日本語 初級I（みんなの日本語 初級I）』台北市、大新書局

スリーエーネットワーク（2019 第2版第15刷）『大家的日本語 初級I 改定版（みんなの日本語 初級I 第2版本冊）』台北市、大新書局

橋本進吉（1929）「國語史研究資料としての聲明」『密教研究』32、和歌山県、pp.140-150

原田登美（2001）「漢語形容動詞についての一考察」『言語と文化』（5）、神戸市、pp.101-117

潘潔（1993）「日本語の感情・感覚表現と中国語の対照」『福井工業大学研究紀要』二（23）、福井市、pp.109-118

- 反対語対照語辞典編纂委員会（1999 第二刷）『活用自在 反対語対照語辞典』東京都、柏書房
- 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味 第I巻』東京都、くろしお出版
- 中村一男（1990 四八版）『反対語大辞典』東京都、東京堂出版
- 日本語教育教材開発委員会（2005）『来学日本語（学ぼう！日本語）』新北市、尚昂文化
- 日本語教育教材開発委員会（2012 三版一刷）『来学日本語 基礎I 改定版（学ぼう！日本語）』新北市、尚昂文化
- 松村明編集『大辞林 第三版』（コトバンク <https://kotobank.jp/>)
- 松村明監修『デジタル大辞泉』（ジャパンナレッジ <https://japanknowledge.com/library/> ; コトバンク <https://kotobank.jp/>)
- 松本悠哉（2017）「語幹に格助詞を伴う形容動詞の用法について」『東京大学言語学論集』38、東京都、pp.123-144
- 山崎恵（2000）「「～を好きだ／嫌いだ」という表現について」『日本と中国ことばの梯 佐治圭三教授古稀記念論文集』東京都、pp.197-205、くろしお出版
- 中央研究院平衡語料庫（<http://asbc.iis.sinica.edu.tw/>）

付録

「～好き」、「～嫌い」の前接部の意味範疇

	体の類			用の類			相の類		
		～好き	～嫌い		～好き	～嫌い		～好き	～嫌い
抽象的関係	1.10 事柄	2/2.5%(4/1.3%) ⁴¹	0(0)	2.10 真偽	0(0)	0(0)	3.10 真偽	0(0)	0(0)
	1.11 類	1/1.3%(1/0.3%)	0(0)	2.11 類	0(0)	0(0)	3.11 類	0(0)	0(0)
	1.12 存在	1/1.3%(0)	1/3.3%(1/0.9%)	2.12 存在	0(0)	0(0)	3.12 存在	0(0)	0(0)
	1.13 様相	2/2.5%(1/0.3%)	0(0)	2.13 様相	0(0)	0(0)	3.13 様相	4/5.1%(0)	0(0)
	1.14 力	0(0)	0(0)	2.14 力	0(0)	0(0)	3.14 力	0(0)	0(0)
	1.15 作用	2/2.5%(0)	2/6.7%(3/2.6%)	2.15 作用	0(0)	1/3.3%(0)	3.15 作用	0(0)	0(0)
	1.16 時間	2/2.5%(4/1.3%)	2/6.7%(3/2.6%)	2.16 時間	0(0)	0(0)	3.16 時間	1/1.3%(0)	0(0)
	1.17 空間	1/1.3%(4/1.3%)	2/6.7%(1/0.9%)	2.17 空間	0(0)	0(0)	3.17 空間	0(0)	0(0)
	1.18 形	1/1.3%(1/0.3%)	0(0)				3.18 形	0(0)	0(0)
	1.19 量	7/8.9%(6/2.0%)	4/13.3%(3/2.6%)	2.19 量	0(0)	0(0)	3.19 量	2/2.5%(1/0.3%)	0(1/0.9%)
人間活動の主体	1.20 人間	7/8.9%(1/0.3%)	5/16.7%(4/3.4%)						
	1.21 家族	2/2.5%(0)	0(1/0.9%)						
	1.22 仲間	1/1.3%(0)	0(1/0.9%)						
	1.23 人物	4/5.1%(10/3.4%)	2/6.7%(7/6.0%)						
	1.24 成員	4/5.1%(1/0.3%)	0(3/2.6%)						
	1.25 公私	1/1.3%(7/2.3%)	2/6.7%(8/6.9%)						
	1.26 社会	0(4/1.3%)	1/3.3%(1/0.9%)						
	1.27 機関	0(3/1.0%)	0(2)						
人間活動一精神および	1.30 心	4/5.1%(21/7.0%)	3/10.0%(10/8.2%)	2.30 心	0(0)	0(0)	3.30 心	2/2.5%(1/0.3%)	0(0)
	1.31 言語	5/6.3%(25/8.4%)	1/3.3%(9/7.8%)	2.31 言語	0(0)	0(0)	3.31 言語	0(0)	0(0)
	1.32 芸術	3/3.8%(30/10.1%)	0(5)	2.32 芸術	0(0)	0(0)			
	1.33 生活	11/13.9%(46/15.4%)	1/3.3%(7/6.0%)	2.33 生活	0(0)	0(0)	3.33 生活	1/1.3%(4/1.3%)	0(0)
	1.34 行為	8/10.1%(5/1.7%)	2/6.7%(2/1.7%)	2.34 行為	0(0)	0(0)	3.34 行為	1/1.3%(0)	0(0)

⁴¹ () 前の数字は辞書に収録された見出し語の数とパーセンテージで、() 内の数字は辞書に収録されていないが BCCWJ に用例が見られた語の数とパーセンテージである。

行為	1.35 交わり	3/3.8%(10/3.4%)	2/6.7%(3/2.6%)	2.35 交わり	0(0)	11/37.7%(0)	3.35 交わり	0(0)	0(0)
	1.36 待遇	2/2.5%(3/1.0%)	0(3/2.6%)	2.36 待遇	0(0)	0(0)	3.36 待遇	0(0)	0(1/0.9%)
	1.37 経済	0(7/2.3%)	1/3.3%(2/1.7%)	2.37 経済	0(0)	0(0)	3.37 経済	0(1/0.3%)	0(1/0.9%)
	1.38 事業	1/1.3%(13/4.4%)	0(7/6.0%)	2.38 事業	0(0)	0(0)			
生産物および用具	1.40 物品	3/3.8%(3/1.0%)	0(0)						
	1.41 資材	2/2.5%(3/1.0%)	0(2)						
	1.42 衣料	1/1.3%(11/3.7%)	0(0)						
	1.43 食料	6/7.6%(55/18.5%)	3/10.0%(14/12.1%)						
	1.44 住居	1/1.3%(0)	0(4/3.4%)						
	1.45 道具	5/6.3%(20/6.7%)	0(3/2.6%)						
	1.46 機械	0(17/5.7%)	1/3.3%(6/5.2%)						
1.47 土地利用	1/1.3%(2/0.7%)	0(0)							
自然物および自然現象	1.50 自然	3/3.8%(1/0.3%)	0(0)	2.50 自然	0(0)	0(0)	3.50 自然	2/2.5%(4/1.3%)	0(0)
	1.51 物質	2/2.5%(5/1.7%)	2/6.7%(4/3.4%)	2.51 物質	0(0)	0(0)	3.51 物質	0(0)	0(0)
	1.52 天地	0(7%)	0(0)	2.52 天地	0(0)	0(0)	3.52 天地	0(0)	0(0)
	1.53 生物	0(3/1.0%)	0(2/1.7%)				3.53 生物	0(0)	0(0)
	1.54 植物	5/6.3%(10/3.4%)	0(7/6.0%)						
	1.55 動物	4/5.1%(13/4.4%)	2/6.7%(10/8.2%)						
	1.56 身体	1/1.3%(2/0.7%)	2/6.7%(3/2.6%)	2.56 身体	0(0)	0(0)	3.56 身体	0(0)	0(0)
1.57 生命	0(0)	0(0)	2.57 生命	0(0)	0(0)	3.57 生命	0(0)	0(0)	
その他	4.11 接続	0(0)	0(0)						
	4.30 感動	0(0)	0(0)						
	4.31 判断	0(0)	0(0)						
	4.32 呼び掛け	1/1.3%(0)	0(0)						
	4.33 挨拶	0(0)	0(0)						
	4.50 動物の鳴き声	0(0)	0(0)						